

伊賀の里モクモクファームに 地域おこしのヒントを学ぶ

『伊賀の里ただいま大奮闘』 金丸弘美著

ろし「モクモク本」である。伊賀の養豚農家が出資をして拠点をづくり、そこから伊賀豚のハムやソーセージ、さらには地ビールやパ

ンケ所の農村を訪ね歩いたライター・金丸弘美さん(49)による書き下

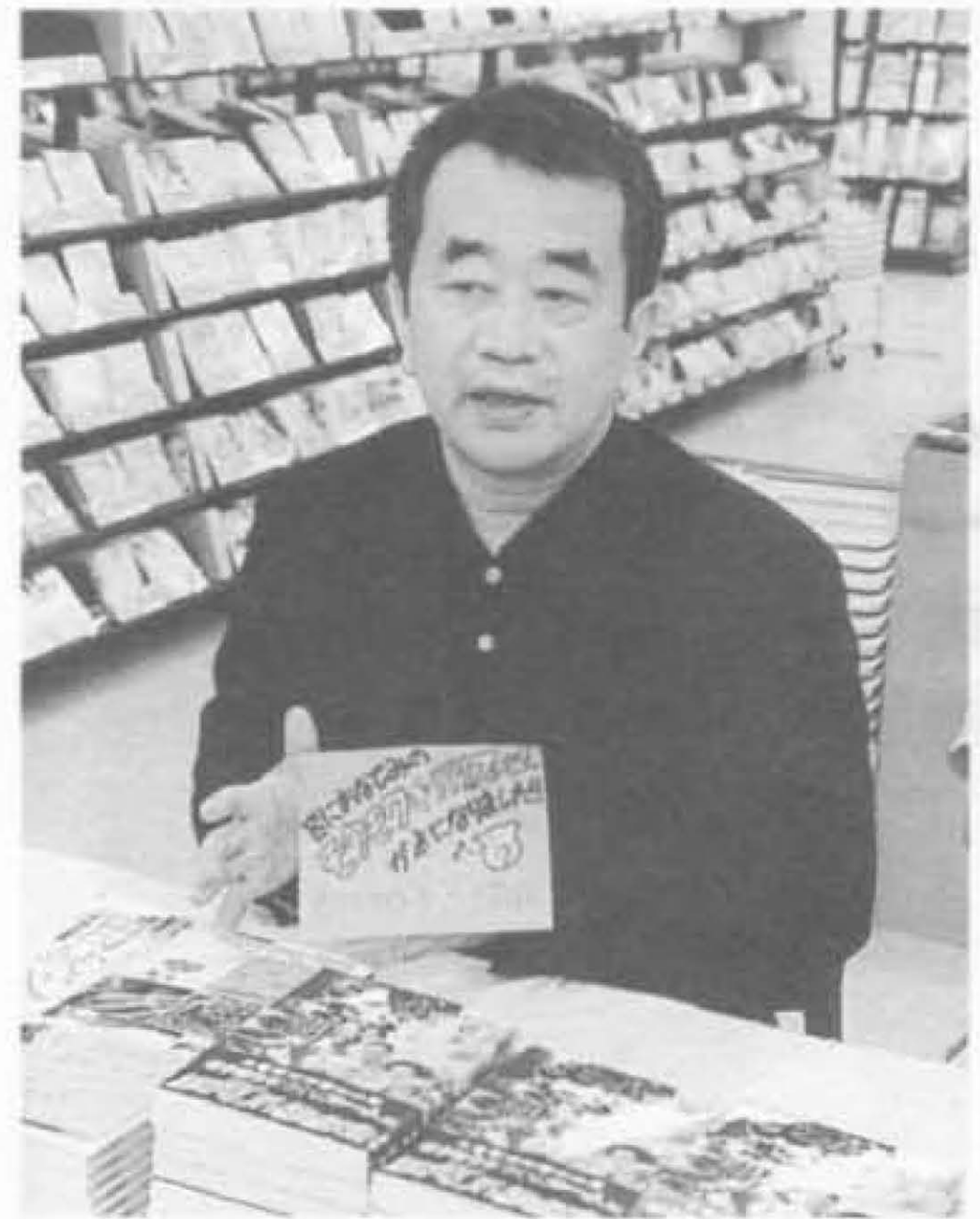
数字というものはたいてい無味乾燥だが、時にリアルでハッとさせられる。人口八五〇〇人の町に、年間五〇万人が来訪するとか、スタッフの平均年齢が二七・五歳であるとか。本著を読むまでは、伊賀のモクモク手づくりファームがそれだけ図抜けた地域おこしの代表だとは認識していてもなかった。

「日本中どこへ行っても暗い話が多い中で、モクモクの軌跡は必ずや、地域おこしや産業活性化のヒントになると思います」

前例がないことに挑戦するモクモクの姿勢にならって、この本は既存の流通ルートにのせず、筆者と編集者が自ら地方の書店をまわって置いてもらう「産直」方式をとっている。

数字というものはたいてい無味乾燥だが、時にリアルでハッとさせられる。人口八五〇〇人の町に、年間五〇万人が来訪するとか、スタッフの平均年齢が二七・五歳であるとか。本著を読むまでは、伊賀のモクモク手づくりファームがそれだけ図抜けた地域おこしの代表だとは認識していてもなかった。

既存のモクモク本と違うのは、開祖であるW修コンビ(木村社長と吉田専務)でなく、若きスタッフ中心に焦点をあてている点である(実年齢や前職まで詳しく書いてある)。これはモクモクが他と一線を画すところ、「マニュアルや固定観念がなければ、人はこんなにも自由な発想ができる」という金丸さんの驚きが正直に表れた結果だろう。



足かけ4年モクモクへ通ったライターで、スローライダーの金丸さん。今日もどこかの農家を訪ね歩いているはず。



●四六判、204頁、定価1500円。
●モクモクと伊賀地区の主要書店で販売。
<http://www.e-nap.jp/>でも。
(問)モクモク手づくりファーム
TEL0595・43・0909